



## インタビュー

東京芸術劇場  
芸術監督 **野田秀樹**

ONE'S  
voice  
VOICE.28

# 「書くのが楽しい」新作は、 古の日本のQ&S

開幕前はキャストに驚き、幕が開くとその内容に衝撃が広がる。

それが従来のNODA・MAPならば、次回作はさらに大きな驚きが！新作『Q』に込められた企みとは？

## 「やってやるぞ」と奮い立ったオファー

1999年、同一戯曲を同時期に野田秀樹と競作した蛭川幸雄は、その理由について「近頃は演劇がニュースに取り上げられることが少ない」と言った。そこには、演劇が幅広い層の関心と呼ぶことを意識していなければという聞かれた姿勢と、演劇とは本来、事件性のあるものだということのこだわりがあったのだと思う。実際、合同で開かれたその会見には大変な数のメディアが詰めかけたのだが、氏がもしまだ存命で、NODA・MAP 2年半ぶりの新作『Q』

の詳細を知ったら、大いに侮しがったのではないかな。

なんと『Q』は、映画『ボヘミアン・ラプソディ』が世界的にヒットしたイギリスのロックバンド、クイーンズの代表的なアルバム『オペラ座の夜』を舞台化したほいというクイーン・サイドのオファーが野田に届いてスタートなのだ。

「なにより『ボヘミアン・ラプソディ』そのものが、若い時に出会った“なんだコレ！”という衝撃的な曲でしたから、クイーン側からの話を聞いた時は、あまり前例のないことなので、先方がどこまで本気なのかという勘ぐり(笑)と、果たしてどういうふうによればいいのかという手探り感と、やって

やるぞという挑戦の気持ちが一気に湧き上がりました」

実は、クイーン・サイドは何年も前から『オペラ座の夜』の全曲を使用したながしかの舞台の企画を練っていた。そして、自分たちをいち早く発見し、受け入れてくれた日本で、それが形になることを望んだという。

「まず、聴き込むのと同時に、歌詞を徹底的に読み込みました。全曲使用してほしいという条件を聞いて少しひるんだんですけど、改めて1曲ずつじっくりと聴いてみると、緩い風を運んでくるものもあれば、凛とした刀のような曲もあって、全部の色が違う。と同時に、全体としてひとつのドラマが浮かぶような感覚もあって、まさにシアトリカル。芝居にできないかというオファーの意味がわかりました。しかも謎が深い。たとえば、なぜ『ボヘミアン・ラプソディ』で、ガリレオの名前を連呼するのか。何の気にもとめず聞いていたものが、自分なりに解釈し調べていくと、不可解な部分を含め、追いかけていっておもしろかった。他の曲からもたくさんのインスピレーションをもらいましたね」

## いつかやりたいと思っていたアイデア

そのインスピレーションと、野田がかねてから温めていたもうひとつのアイデアが結びついた。そのアイデアとは、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』の後日譚。

「とりわけ『Love of my life』という曲を聴いた時に、ああ、これは一生をかけた愛についての歌で、いつか書きたいと思っていた『ロミジュリ』の後日譚の世界に繋がるといったんです。僕は『ロミジュリ』は、これ以上ない悲恋のひとつの結晶だと思う。シェイクスピアの初期作品であり、具体的なせりふは彼だけれども、原型とされる戯曲があるので、もともと“いじられた戯曲”だと思っています。イギリスでも“リア王”をいじるのは許されないけど『ロミジュリ』は大丈夫」という人は多いですよ(笑)」

野田流後日譚の舞台に選ばれたのは、12世紀の日本。そしてそこにクイーンズの『オペラ座の夜』に収録されている12曲がちりばめられる。

## 個性豊かで新鮮なキャスト陣

さて、『ロミオとジュリエット』の後日譚と書いたが、単純なそれではない。若かりし頃とその後、つまり2組のロミオとジュリエットが登場するのだ。若い頃のふたりを演じるのは、若手俳優の中でも抜きん出た演技力が高く評価されている志尊淳と広瀬すず。広瀬は、この作品が初舞台となる。そして、その後のロミオとジュリエットを演じるのは、野田が深く信頼する松たか子と、NODA・MAPに待望の初参加が実現する上川隆也。さらに、この4人を取り巻く俳優陣には、満を持してのNODA・MAP初参戦となる橋本さとし、竹中直人、伊勢佳世という実力、存在感ともに評価される面々が揃う。加えて『パイパー』以来、10年ぶりの出演となる怪優・小松和重や、『キル』や『TABOO』などNODA・MAPの初期作品を支え、今なお鮮やかな印象を残す羽野晶紀が21年ぶりに野田作品に復帰するのうれしい。

「これだけ初参加の人が多く座組は久々ですね。彼らとは、もう何度もワークショップを積み重ねてますが、みんなモチベーションが高くて、こちら

も知らずにハイになってます」

それもあるが、「今、書いていてとても楽しい。“仕事”という感覚にならないように書けることは理想です。今、今のところの話です。産みの苦しみはこれからでしょう。待つってよ！産みの苦しみにあつとこかな」と快活に言う。

「何しろ新作は『足跡姫』(17年1月)以来ですからね。クイーン・サイドからOKが出て、ずっと温めていた『ロミジュリ』後日譚が展開できることになって、自分としては早く書きたくて仕方なかったんです。でもその間に、『One Green Bottle』の海外ツアー、歌舞伎版と海外公演の『廣作 桜の森の満開の下』がありましたから、なかなか体も頭も容量が空かなくて」

その口ぶりからは『Q』に留まらない創作意欲が感じ取れる。野田よりも年下の劇作家でも新作に苦勞するのでは？

「でも僕も、少しずつ(新作を書く)間が空いてきていますよ。それは年齢のせいもあるし、年々余計なことでも忙しくなっている。今年から「東京演劇道場」も始めちゃった(笑)。若い時に“年取ってから良いもの書いたヤツなんていない”なんて暴言を吐いてたから、自業自得です。でも、ただ書けば良いってものじゃないという思いはあって…慎重にやっています。井上ひさしさんという希望の巨星がいますね。井上さんは最後まで(若い頃と)エネルギーの変わらないものを書き続けましたから、演出ではもちろん蛭川さんが希望の巨星です。とすれば、80歳くらいでもエネルギーに仕事ができるってことです。井上さんと蛭川さん両方のエネルギーって、どれだけ欲深いのって話ですよ」

筆の乗りの良さを想像させる前向きな言葉が続いた。おそらく『Q』には、このインタビューには出さなかった企みがまだ潜んでいるに違いない。期待を募らせ、大作を待とう。

取材・文：徳永京子

## 野田秀樹 HIDEKI NODA

劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。92年に「劇団 夢の遊戯社」を解散後、ロンドンへ留学。帰国後の93年に演劇企画制作会社「NODA・MAP」を設立。以来「キル」「赤鬼」「ロンドンの鐘」「THE DEE」「ザ・キャラクター」「エグ」「足跡姫」「One Green Bottle」など話題作を次々と発表。モーツァルト戯曲『フィガロの結婚』役脚は見たり、オペラの演出も手がけるほか、海外の俳優やスタッフとの共同制作による英国版『One Green Bottle』を東京、韓国、ロンドン、ルーマニアで上演し大きな反響を得る。演劇界の旗手として伸え続けた精神的な創作活動を行う。2015年よりブラジル、東北、東京、京都、などで、国内外の多種多様な表現者達と新たな幻想的な表現を創出する文化ワークショップ「東京キャラバン」を実施。2018年NODA・MAP第22回公演『廣作 桜の森の満開の下』を東京、大阪、北九州、パリで上演し大きな反響を得る。2019年4月より松竹シネマ歌舞伎『野田 桜の森の満開の下』を全国で上映。10月には、2年半ぶりとなる新作『Q: A Night At The Kabuki』を東京、大阪、北九州で上演予定。世界を駆け回り、意欲的に活動を展開している。

## NODA・MAP 第23回公演

### 「Q: A Night At The Kabuki」

Inspired by A Night At The Opera

作・演出:野田秀樹 音楽:QUEEN

10月8日(火)~15日(火) / 11月9日(土)~12月11日(水)  
プレイハウス

ほか大阪、北九州 公演あり

出演:松たか子 上川隆也 広瀬すず 志尊淳

橋本さとし 小松和重 伊勢佳世 羽野晶紀 野田秀樹 竹中直人

チケット発売:9月7日(土) 【詳細はHPへ】 [www.nodamap.com/](http://www.nodamap.com/)



松たか子



上川隆也



広瀬すず



志尊淳



橋本さとし



小松和重



伊勢佳世



羽野晶紀



野田秀樹



竹中直人